

## 令和6年度 国立国語研究所 運営会議（第1回） 議事概要

日時：令和6年6月25日（火） 10：30～12：20

場所：Web 会議

出席者：河原委員、金水委員、呉人委員、小泉委員、近藤委員、滝浦委員、田中委員、  
浅原委員、石黒委員、小木曾委員、小磯委員、高田委員、松本委員、前川所長

議事：議事に先立ち、事務局より、「国立国語研究所運営会議規程」第5条第1項による定足数の確認が行われた。

### <前回議事概要確認>

#### （1）前回議事概要（案）について

議長から、資料1に基づき、「令和5年度国立国語研究所運営会議（第3回）議事概要（案）」について説明があり、原案のとおり了承された。

### <審議事項>

#### （1）クロスアポイントメント制度にかかる教員の採用について

所長から、資料2に基づき、本年8月1日設置予定の次世代言語科学研究センターに、クロスアポイントメント制度を利用して、統計数理研究所所属の准教授1名を招聘する旨説明があり、了承された。

#### （2）令和6年度客員教員について

所長から、資料3に基づき、次世代言語科学研究センターに配置する客員教員3名(新規：2名、継続(変更)：1名)について説明があり、了承された。

### <報告事項>

#### （1）言語資源開発センター特任助教の公募について

所長から、資料4に基づき、文化庁受託事業(BCCWJ 拡充)に従事する特任助教(言語資源開発センター配属、令和6年10月1日採用予定)の公募を計画しており、11月の運営会議で選考結果を報告する旨説明があった。

#### （2）次世代言語科学研究センターの設置について

所長から、資料5に基づき、改めて次世代言語科学研究センターの設置について報告があった。また、センター長予定者を紹介したほか、一時的に3センター体制になるものの、来年4月には、共同利用推進センターと言語資源開発センターを統合した新センターの設置を計画しており、2センター体制に戻る旨説明があった。

説明を受け、委員から、共同利用推進センターと言語資源開発センターは業務内容が異なっているが、統合した場合の新センターの人員や業務量がどうなるのかという質問があった。所長から、2センターの統合については以前から議論されていたこと、言語資源開発センターの業務の一部が

プロジェクトに移行しており、業務量の調整がなされていることから、統合しても過度の業務量にはならない見込みである旨説明があった。

### (3) 将来計画委員会の設置について

所長から、資料 6 に基づき、第 5 期中期目標・中期計画期間を見据え、将来計画委員会に対し、将来計画(案)の策定を諮問した旨報告があった。また、現委員長と相談し、新しい委員長を決定したこと、委員については新委員長が調整し、第 5 期の 6 年間を通じて在職する教員(11 名)と管理部職員を選出した旨説明があった。

### (4) 国立国語研究所宮地裕日本語研究基金について

宮地裕日本語研究基金運営委員会委員長から、資料 7 に基づき、現在、第 2 回学術賞・学術奨励賞、及び総研大日本語言語科学コース特別奨学金の審査が進められており、7 月 1 日の宮地裕日本語研究基金運営委員会で決定されること、学術賞・学術奨励賞授賞式を計画しており、日時が決まり次第、案内予定である旨報告があった。

### (5) 共同利用型共同研究の採択報告について

所長から、資料 8 に基づき、2 月の運営会議後、共同利用型共同研究(B)に 4 件の応募があり、4 件全て採択された旨報告があった。

### (6) 令和 7 年度概算要求について

所長から、資料 9 に基づき、令和 7 年度概算要求として、令和 6 年度概算要求で採択された「DH によるデータ集積を前提とした言語研究を先導する E3P-Linguistics の確立」の拡充要求を進めており、教員数として 6 名（うち継続分 2 名、拡充分 4 名）を要求する旨報告があった。

また、今後の研究所の人員配置について、副所長 2 名（評価担当・国際連携担当）・研究主幹 1 名の体制から、研究主幹を廃止し、副所長 2 名（評価担当・研究推進担当）体制に改めることを計画している旨説明があった。

### (7) 国立国語研究所の活動について

所長から、資料 10 に基づき、学術交流協定の締結・更新、研究所の運営・体制、イベントの開催状況、広報・社会貢献活動等、国立国語研究所の活動状況について報告があった。

### (8) その他

#### ・『日本語の大疑問』について

所長から、前回、委員から質問のあった、『日本語の大疑問』の印税の用途については、ウェブサイトや広報誌など研究所の広報活動のために使用していること、今年 3 月に執筆者に対して礼状の送付と 3 部ずつの追加献本を行った旨報告があった。

#### ・次回開催日について

議長から、第 2 回運営会議を、オンライン形式で、7 月 26 日(金)15:30~16:45 に予定している旨報告があった。

議事終了後、五十嵐教授から「比較言語学的手法に基づいた日本の危機言語研究とその周辺」と題した研究紹介が行われた。

最後に議長から、前回欠席された委員から一言ずつ意見をいただきたいとの提案があり、研究所が

社会的な要請に基づいて組織の見直しや新たなプロジェクトに取り組んでいることが分かったとの発言、今後も研究紹介を企画して欲しいといった発言があった。

以上